

札幌トンネル掘削土受入候補地(手稲山口地区)説明会における主な質疑概要

日時： 令和2年6月27日(土)、28日(日)、29日(月)、30日(火)

場所： 山口処理場管理棟会議室

説明者： 札幌市：生野新幹線推進室長、林新幹線推進担当課長 ほか

鉄道・運輸機構：魚津工事次長、斉藤工事第七課長 ほか

○説明会の位置付け

本説明会は、札幌市の山口処理場の一部をごみの埋立てに代えてトンネル掘削土(対策土含む)の受入候補地としたこと、新幹線工事で発生する土の性状や対策土の対策イメージ、今後の進め方等について住民の皆様にお知らせするため開催したものです。

1 受入候補地の選定に関すること

【質問1-1】

対策土の受入候補地として金山と山本で考えていたと思うが、山口を受入候補地とした経緯を教えてください。

《回答1-1》

(札幌市)金山・山本の2箇所だけでは札幌市内から発生する対策土の全量を受入れできないことが想定されるため、新たな受入候補地の選定を進めてきました。受入候補地は公募と市有地の中から選定しており、市有地において当初は面積50,000m²以上、他の事業予定の無い用地を選定していましたが、面積要件を緩和し、事業予定地も含め再検討を行った結果、新たに山口処理場の一部を受入候補地として選定しております。

【質問1-2】

トンネル掘削土に含まれる重金属は自然界に存在し、一般の敷地内にもあるものだから心配ないという説明に聞こえたが、金山・山本で受入れを断られている。一般的に心配ないものをなぜ断られて山口に持ってこなくてはいけなくなったのか。

《回答1-2》

(札幌市・機構)金山は浄水場や土砂災害警戒区域に近いこと、山本は地盤が軟弱で地盤全体が沈み、対策土が地下水に浸透するのではないかといった、立地条件に対する不安が払拭できていない状況です。金山・山本について候補地から外したわけではなく、説明を続けていきます。また、重金属は自然界に存在するから心配ないというわけではなく、基準値を超えたものは、周辺に影響を与えないようしっかりと対策を行う必要があると考えております。

【質問1-3】

対策土を大きな土地に集めるのではなく、もっと分散して他の市有地へ配置することは考えられないのか。

《回答1-3》

(札幌市)盛土面積が小さいと、受入箇所数が非常に多くなり管理も難しくなるため、ある程度の面積を有している市有地を選定しております。

【質問1-4】

トンネルを掘れば対策土が出ることがわかっていたはずなのに、処理方法を考えずになぜ工事に着工したのか。

《回答1-4》

(機構)平成24年に北海道新幹線の認可を受けた後、沿線各市町村の協力を得ながら受入候補地を探してきましたが、受入地が見つからない状況が続いております。札幌市内において現時点で候補地となっている場所は金山・山本と本日、説明している山口となっております。

【質問1-5】

事前調査をさせてほしいという説明内容であるが、事前調査を実施するとそのまま土を受入れることになってしまう可能性があり、調査そのものが危険なのではないかと思う。このため金山は事前調査もダメだと言っている。

《回答1-5》

(札幌市・機構)受入候補地はごみ処理場の一部であり、周辺を処理場として盛土してきた実績があるため、盛土ができないという判定にならないと考えております。まずは、現地の地盤状況を把握し、検討した上で具体的な対策工法の説明をするためにも、事前調査を行う必要があると考えております。

【質問1-6】

ごみの埋立地として確保した土地に対策土を搬入しようと判断したのは市長になるのか。

《回答1-6》

(札幌市)札幌市として判断しております。

2 重金属や対策工に関すること

【質問2-1】

対策土の数値は基準値の10倍から30倍ぐらいの濃度となっている。住民としては絶対に安全と言えるのか非常に心配である。対策工のうちシートで土を包む工法の場合、シートの耐久性はどれくらいあるのか。また、吸着層は実際に効果があるものなのか。

《回答2-1》

(機構)シートの耐久性について、耐久性低下の原因は紫外線にあると言われ

ておりますが、本工事の場合、工事完成後はシートを土で覆い紫外線にあたらないようにするため、基本的に紫外線によるシートの劣化はないものと考えております。吸着層について、重金属に対する吸着能力を事前に室内試験と解析によって確認した上で安全性を確保する工法であり、全国で複数の実績がある工法となっております。

【質問2-2】

ごみ処理場を造成する際、遮水シートは半永久的にもつと言ったのに、2・3年ですぐに穴が開いてしまった。井戸水を使えなくなり、水道水を引いた人もいる。

《回答2-2》

(札幌市)ごみ処理場の周辺では地下水の水質を測定する観測井を設けています。水質測定のうち漏水の指標となる塩化物イオン濃度を測定しておりますが、過去の数値データから遮水シートに穴が開いて漏れているといった事実は確認されておられません。

【質問2-3】

山口は手稲山から海に向かって地下水が流れてきている。既にごみ処理場で利用している箇所はシートを敷いて地下水を遮断しているため、もし、今回の場所から重金属が漏れ出た場合、遮断されている場所の影響によって広範囲に汚染が広がる可能性がある。そういった懸念も踏まえて調査して示してほしい。

《回答2-3》

(機構)事前調査の中で地下水の流れや向きを調査いたします。また、地下水の水質についても併せて、施工前に調査いたします。

【質問2-4】

山口は砂地であり、液状化現象が懸念される。今後、事前調査を実施した上で確認すると思うが、今まで液状化するような地盤に対策土を盛土した事例はあるか教えてください。

《回答2-4》

(機構)北海道新幹線工事での実績はありませんが、液状化に対して地盤を固めたり、水圧が大きくなるよう排水を促したりする等の対策工があります。事前調査を実施した上で詳細検討を行い、改めて説明する場を設けて頂きます。

【質問2-5】

手稲鉾山跡地は現在、現地に処理設備を設けて処理している。今回、持ってくる土も現地で中和してから持ってきてはかがか。

《回答2-5》

(機構)手稲鉾山跡地は、昔の採掘時代に地下深く掘った坑道内に常時、地下水が供給されており、溜っている地下水を処理するため、現地に処理設備

が設置されているものです。対策土の対策工は詳細検討を実施した上で説明会資料12ページに記載している工法から選定する予定です。なお、現在、北海道新幹線工事において、対策土の受入地として7箇所施工中であり、各現場にて対策工を講じた結果、周辺に影響が出た事例はありません。

3 受入候補地の工事中及び完成後の管理に関すること

【質問3-1】

対策土を持ってくることで風評被害が起きる。風評被害は目に見えないもので、農作物の価格や地価に影響が出ることが大きな問題。

《回答3-1》

(札幌市・機構)対策土に関する正確な情報の発信や、測定した水質モニタリング数値の結果を公表するなどして、周辺環境に影響が出ていないことを周知し、風評被害が起こらないよう努めます。

【質問3-2】

・農家は農作物に水をあげるのに地下水を使っており、地下水への影響を心配している。農作物や地下水に影響が出た場合は補償してくれるのか。

・山口は海風が強く、対策土の粉塵で健康被害が出たら、補償してくれるのか。

《回答3-2》

(機構・札幌市)地下水等に影響が出ないよう対策を実施いたします。万が一、対策を講じた上で影響が出た場合、補償することになります。

【質問3-3】

モニタリング中に、地下水が基準値を超過した場合は、どのような対策をとるのか教えてほしい。

《回答3-3》

(機構)基準値を超えないよう対策工を実施しますが、万が一、基準値を超過した場合、速やかに周辺住民にお知らせした上で、周辺河川の水質等へ影響が出ていないか確認を行い、対策の例として、地下水をくみ上げ処理装置により浄化した後、排水するといった方法があります。

【質問3-4】

山口に盛土するとした場合、どの程度の規模になるのか教えてほしい。

《回答3-4》

(札幌市・機構)盛土の高さは、受入候補地の地盤強度などを調査した上で決まることとなります。ごみ処理場計画時に高さ16.5mを超えないよう地元の皆様から要望を頂いておりますので、16.5mより低い高さで盛土することを考えております。また、敷地境界からある程度の距離(緩衝帯)を設けて盛土することにより、周辺環境へ影響を与えないようにいたします。事前調査で得られたデータを基に詳細検討を行い、改めて説明する場を設けさせて頂

きます。

【質問3-5】

山口に運搬するのは札幌市から発生した対策土と考えてよいか。

《回答3-5》

(札幌市)山口に運搬するのは札幌市内の工区から発生した対策土を考えております。

4 其他のご質問・ご意見

【質問4-1】

ごみ処理場の造成時に運動施設をつくるという約束だったのに、いまだに守られていない。

《回答4-1》

(札幌市)当初の計画では平成20年にごみの埋立てが完了し、その後、跡地利用として運動施設を建設する構想でしたが、近年のごみのリサイクルや減量によって、ごみ処理場の延命化が図られており、現在も埋立中のため跡地利用には至っておりません。埋立てが完了した後は、地域のご意見やご要望も伺いながら跡地利用を考えていきます。なお、西パークゴルフ場は、ごみ処理場造成にあたり先行して整備しているものです。

【質問4-2】

・対策土を受け入れた後は、山口をイメージのよい土地にしていくと言っていたが、内容に具体性がない。

・地域の発展策があればぜひ示してほしい。もし、山口が社会問題となっている対策土を受入れた場合、新幹線を開業させるために山口が協力をしたということを堂々と世間に示してほしい。

《回答4-2》

(札幌市)対策土を受け入れることで、地域に不利益があってはならず、メリットがあつて然るべきであります。また、対策土の対策工法について、皆様によく知って頂き、搬入した土地が安全であるということ、マスコミ等通じて発信していきます。将来的な土地利用については、地域の方々と協議し、地域のニーズに合った利用方法を一緒に検討していきたいと考えております。

【質問4-3】

小樽市役所や隣接するゴルフ場・小学校等への説明は行っているのか。

《回答4-3》

(札幌市・機構)小樽市役所やゴルフ場等には別途説明を行っております。また、その他の近隣施設から問合せを受けており、説明する機会を設けることとしております。

【質問4-4】

住民から反対があつても対策土の受入れは進めるのか。地域住民の意見をしっかりと聞いて、それでも反対が多かったら撤回するといった姿勢が必要ではないか。

《回答4-4》

(札幌市・機構)今回のような事案については他の公共事業と同様に、法的に反対の割合で判断するといった基準はないものと認識しております。しっかりと対策を行い、安全を確保することが重要と認識しており、対策工に対する不安・反対等の意見については、理由を1つ1つひもときながら説明させて頂き、対策の安全性について、住民の皆様の理解が広まるよう努めてまいります。

【質問4-5】

JR北海道は毎年赤字になっている。新幹線自体そのものが必要なのか。

《回答4-5》

(機構)北海道新幹線は開業直後ではなく、将来的に採算性がとれることを確認した上で着手しております。新幹線事業は将来のまちづくりや国の骨格をなす有用な事業のため、ご理解のほどお願いいたします。

(札幌市)新幹線は東京だけではなく、道南・東北を結ぶという重要な交通機関となります。また、雪の影響を受けにくい交通機関でもあり、飛行機の他に移動手段の幅が広がることは札幌市にとっても非常に重要と考えております。

【質問4-6】

トンネルを掘るから対策土が出てくる。橋梁にしたり、今のルートから遠回りになったとしても対策土が出てこない場所を掘っていくしかないのではないか。

《回答4-6》

(機構)新幹線は高速で走る交通機関であり、安全性を確保するため、ルートを変更して急なカーブをつくったりすることは難しく、また、北海道の山が多いという特徴からトンネルが多くなっております。

【質問4-7】

山口はもともと東西の町内会が一緒であったので、次回は東西合同で説明会を開催してほしい。

《回答4-7》

(札幌市・機構)今回はコロナウィルスの影響もあり、参加者が集中しないよう分散化を図ることを目的として、東西に分けて説明会を開催しております。次回以降の説明会は今後の情勢を踏まえ調整させていただきます。